

みなさん、こんにちは。新緑がまぶしい5月を迎えました。新年度の慌ただしさが少し落ち着いてきた頃ですね。環境の変化にも少しずつ慣れ、仕事や生活も軌道に乗り出す頃。一方で、忙しさの中で少しずつ溜まった疲れを感じる頃でもあるでしょう。すずき歯科でお口さっぱり、リフレッシュしてくださいね。

メタルフリーのすすめ

お口の中から金属をなくす・金属を使わない「メタルフリー歯科治療」が、ここ数年世界的に加速傾向にあることをご存じですか？今なぜ、メタルフリーなのでしょう？

銀歯の寿命はおよそ5～7年

あなたのお口の中に**銀歯**は入っていませんか？また、歯医者さんでつめた**銀歯がとれた**経験はありませんか？

保険治療でつめた銀歯の寿命はおよそ5年程度と考えられています。統計によると、平均7年で使用している箇所に何らかのトラブルが発生し、やりかえられています。

保険治療＝安全、とは限らない

保険治療で使用される銀歯（つめもの・かぶせものなど＝修復物）の素材は金銀パラジウム合金というものです。成分は[銀 48%、パラジウム 20%、銅 17%、金 12%、その他（亜鉛・イリジウム・スズ） 3%]です。このうち金以外はアレルギーの原因になりうる金属です。特にパラジウムは**金属アレルギーになりやすい**物質です。このような金属が歯科材料で使用されているのは、先進国では**日本だけ**。海外ではパラジウムは身体に良くないことが広く認識されています。また、年月を経て溶けてくる（腐食する）ため、歯との間に隙間ができます。どんなに高い技術で理想的な合着ができたとしても、素材の劣化は避けられません。次第に密着性が損なわれ、**二次カリエス（むし歯）**になりやすくなるのです。

－見何の問題もなさそうに見える銀歯を詰めた歯ですが…



取ってビックリ！銀歯の下にはこんなに大きな虫歯が。

合着と接着の違い

保険治療で使用される金属の修復物を歯に装着する場合の接合の仕方を「**合着**」といいます。これは歯と修復物の凹凸にセメントが入り込んで固まり、その摩擦力で**はまっている**状態です。残念ながらセメントが経年劣化し溶け

る、金属の腐食が進むことにより隙間が出来るため剥がれてきます。

一方メタルフリー治療で使われるセラミックなどを装着する場合には、歯・修復物と接着剤の化学的な結合（分子的結合）によって互いがしっかりと吸着します。このような接合の仕方を「**接着**」といいます。

合着には限界があり、虫歯の再発や修復物の脱離など様々な不具合を引き起こしてしまいます。

保険＝安価？

確かに保険治療を選択すれば治療費を抑えることができます。しかし保険適用となる銀歯での治療は、見た目の悪さ・アレルギーの問題・二次カリエス発生の危険など、長い目で見れば安いとは言い切れないでしょう。

セレックという選択肢

当院ではセレックシステムを導入しています。従来は修復物の作製に技工所を通すため時間や費用がかかっていたところを、このシステムにより同じ材料でも時間や費用を抑えて作製することができるようになりました。

「**自費治療なんて高額すぎてムリ！**」とはじめから安易に保険治療を選択するのではなく、**近い将来のお口の状態や健康のことを想像してみてください**。そのうえで、修復物の素材について検討されることをおすすめします。自由診療で使用できる素材にはたくさんの選択肢がありますので詳しくはTC（トリートメントコーディネーター）や歯科衛生士にお尋ねください。

5月11日はすずくり開院記念日。2017年も無事にこの日を迎えることができました。12年目に突入したすずくりを、これからもどうぞよろしくお祈りします！！



**おかげさまで
すずくりは11才になりました**